

令和7年度第2回六中学校運営協議会(CS 会)議事録

令和7年5月22日(木)16時00分～

調布市立第六中学校

1 自己紹介

※初回欠席された委員がいたため、各委員が自己紹介

2 体育大会について …5/20(火)実施

① 従来と内容を変更した体育大会について校長より説明

人格の形成を目指し、生徒が主体的に学ぶ学校という六中の教育理念の下、今年度は「誰もがスポーツの楽しさを感じることでできる体育大会」としてその在り方を見直した。そこで、様々な個性をもつすべての生徒が誰一人恥をかいったり晒されたりすることのない大会を目指し、皆で一つのを創り上げる喜びを感じられる仕組みを生徒と教員が一緒に考えた。強制的に全員が参加する種目は採用せず、生徒一人一人の選択を尊重しつつ、対話を重ねて調整した上で種目やルールを決定し、実施することができた。

体育大会前の学校だよりでも周知したが、終了後の保護者アンケートは9割以上が肯定的で、称賛の声も多かった。長く教員をする中で体育大会前に毎年必ずあった「学校にいきたくない・体育大会が嫌だ」といった相談が今回は一件もなかった。今年の体育大会を通して、人権教育や共生社会につながる新しい一歩を踏み出したのではないかと思う。

② 体育大会を参観した委員の感想

- ・各競技にかける熱い思い、懸命に取り組む姿、生徒たちの仲間を応援する一体感や清々しさ、審判・放送などの係活動にも積極的に取り組んでいる姿が印象的だった。
- ・新競技・クラスカラーの玉入れは、盛り上がってよかった。
- ・雨天延期のため平日開催となったが、保護者の参観が多く驚いたがうれしかった。

③ 有識者の委員より

例年のものを変えるにはエネルギーがいるが、先生が一石を投じて変えていく姿を見せることが重要。生徒たちは従来の体育大会を見てそれを基準として考える面があり、特に思いが強い3年生は変えることに抵抗を感じる場合もあるが、意義について丁寧な対話を重ねるプロセスこそが、生徒たちの将来に生かされる。もし納得できなかった生徒がいたとしても、必ず成長の糧となるはず。

3 不登校支援について

① 不登校支援担当の教員がCS 会に参加し、現状と体制について説明

- ・毎週1回、校内委員会を開催し、支援対象となる生徒一人一人について資料をもとに現状の共通理解と今後の対応について協議している。
- ・六中には「サポートルーム」という別室登校の仕組みがあり、学習の場として必要な生徒が利用している。
- ・オンライン授業の取り組みも行っており、教室で行われている授業を Meet で配信している。
- ・授業のプリントについては、漏れがないよう茶封筒にまとめて入れ、生徒に渡している。
- ・市の施策である訪問型支援「みらい」(※1)や「メンタルフレンド」(※2)も利用している。

※1 訪問型支援「みらい」…専門の支援員が生徒の自宅や公共施設を訪問して支援する。

※2 メンタルフレンド…東京学芸大学と連携し、生徒の話し相手になる大学生を派遣する。

② 不登校支援に対する委員からの質問とその回答

・通級指導との連携について

→通級指導の担当教員が生徒から多様な相談を受け、在籍学級の担任と密接に連絡を取り合って対応に生かしている。

・不登校の生徒に対応する人員について

→スクールカウンセラー、スクールサポーターなどはいるが、不登校の要因は複合的で多様な対応が必要とされるため、人員としては不足しがちである。

・地域住民等による支援の可能性について

→不登校生徒の対応には専門的な知識やスキルが求められる上に、コーディネートも難しいため、簡単に入ってもらえる状況ではないと考えている。

⇒授業観察なども行いさらに現状の理解を深めながら、引き続きよりよい支援のあり方について検討していく

4 今後の活動予定について

○6月11日(水) 14時40分～ 哲学対話の校内研修

○次回CS会 令和7年7月17日(木) 15時30分～